

巻頭言

数年前のことになるが、私が県教育庁に勤務し保健係を担当した頃のことである。当時の教育長は現副知事軍司直次郎氏であつた。たまたま本県教育行政の全般について、現況を調査し問題点を把握して、今後の施策を検討することになつた。

何しろ全県下の幼、小、中高校の全領域についての調査検討であるためぼう大な資料である。これを整理し、教育行政の上から指数としてまとめることになつた。その主なものを挙げると、本県の人口、財政、児童生徒の体位、教員数を始めとして、施設、設備の面では、屋内体育館、水泳プール、幼稚園、高等学校の設置数等々である。これらを全国と或は学力の面では学力調査結果の優秀県との対比を試みることになつた。私の担当した児童生徒の体位については、前年度学校保健の悉皆調査をしておつたので、この統計資料によることにしたが、この悉皆調査も実は4・5カ月を費したぼう大な資料である。この資料から、校種別、年次別、男女別といったぐあいに、指数を作成したので、各担当者の努力はたいへんだつたと思われる。しかし、幸いその結果、「本県教育行政の指数」が、5～6頁にまとめあげられた。

指数を一瞥して、本県が財政力に比して、教育面での指数のいちぢるしく低いのに驚いた。例えば児童生徒の体位は全国最下位に近く、学力も下位（年度により上位の教科もあり）であつた。

「これでは救いようがない、こんなに県民は弱いものか、劣等県民か」と軍司教育長をして慨嘆させたものだつた。さらに詳細に検討を進めると、教育条件整備の面においては、屋内体育館、水泳プールの設置は全国最下位、幼稚園の設置数も然り、高等学校の設置数も低く、驚くほかはない。

早速振興計画が策定された。といつても、従来とて無かつたわけではない。計画の手直しにかかつた。早急に着手できるもの、次年度の予算措置にまつもの、年次計画に基く予算編成等々、振興計画が改めて樹立された。こうしたことは指数から得た、大きな示唆であり、収穫でありまた教訓でもあつた。その後、この振興計画に基いた施策が実施され、現在では、屋内体育館も、水泳プールも、幼稚園、高等学校の設立も、飛躍的に増大し

茨城県教育研究会統計教育研究部長

平 戸 貢

た。おそらく本年度の指数は、全国平均を遙かに上回つたものになつているはずである。改めて、軍司教育長の慧眼に敬意を表する次第である。これは指数が示した、教育行政施策の樹立であり、指数が必要を訴え、計画を断行させたと結論づけることができると考える。まさに統計指数の重要性を高く評価した例であると思う。

× × ×

昨年8月、鉾田教育事務所に勤務しておつた折、都内教育部会ごとに女教員の研修会が開催された。夏期休業を利用した女教師の研修会である。女教師の沿革と数の増加、女教師の教職意識、女教師の担当している職務内容、教育活動、研修活動、学校経営参加の度合等について、全国、県内郡市別の比較検討をしながら、講義、討議を主とした研修会である。

たまたま、旭教育部会に参加したとき、この問題について、統計図表が用意された。棒グラフ、面積グラフを主とした色彩をほどこしたまことに要を得た図表であつた。女教師自身の手による作成とのことである。

よくきいてみると、旭中学校は、以前統計教育研究指定校として、高い実績を示した学校であり、生徒と共に全職員が研究に取り組んでいるとのことである。かかる実績が物事に対する考え方、そのまとめ方、発表のしかたに統計図表を活用したということであろう。いわば、これが生活化している結果が、この研修会にも生かされたということである。

ともすると、統計というのは数の羅別で、一般的には関心も薄く、又興味も生じないもののだが、一寸とした工夫というか、この場合統計的な素養が大きく生かされたことであり、研修効果を高めた図表活用の好い例といえよう。

× × ×

情報化社会では、新しい情報をどんどん取り入れて、マンネリ化した知識や情報は捨てて、若返りをはかる必要があるといわれる。時代に即応する統計も、新しい技術、設備を導入するとともに、技術の指導、活用化の指導等、情報化時代に対応する統計教育等のあり方を検討しなくてはなるまい。